



東村立 高江小学校
 学校便り【虹】
 2020年10月1日
 発行責任者 校長 宮城達也

読書の秋！読書月間スタート！

読書の秋！本を読む習慣を身に付けよう！

◎ 中国・唐代の文人である韓愈（かんゆ）が残した詩の中に、「燈火（とうか）親しむべし」という一節があります。その意味は、「秋になると涼しさが気持ち良く感じられ、あかり（燈火）になじむようになる」。つまり、秋は読書に一番適した季節であるということを表したこの言葉が、読書の秋の由来とされています。読書月間の今月、学校でも図書館を中心にいろいろな取組が実施され、子どもたちが読書の楽しさや大切さを知ることができるよう活動が工夫されています。

読書は、国語力を構成している「考える力」「感じる力」「想像する力」「表す力」「国語の知識等」のいずれにもかかわり、これらの力を育てる上で中核となるものです。読書習慣を身に付けることは、国語力（学力）を向上させるばかりでなく、一生の財産として生きる力にもなります。文学作品を読むことに限らず、自然科学・社会科学関係の本や新聞・雑誌を読んだり、何かを調べるために関係する本を読んだり、図鑑や辞書を紐解くことも重要な読書活動です。また、読書は子どもの豊かな心を育むという面においても大きな役割を果たしています。家庭で小さいうちから読み聞かせをしたり、ゆっくりと絵本を見たり、本を読む体験をすることがとても大切です。幼児期からゲームやテレビなどのメディア浸けにされている子どもと、読み聞かせで育った子どもとでは、情操面での発達に大きな違いが出てきます。

スマホ等の電子機器が普及し、「活字離れ」「読書離れ」が叫ばれていますが、これからの時代を考えると、読書の重要性が増すことはあっても減ることはないと考えます。情報化社会の進展は、自分でものを考えずに断片的な情報を受け取るだけの受け身の姿勢を子どもたちにもたらしやすいと思います。これからの先行き不透明な時代、自分でものを考え、判断し、行動する必要があるからこそ、読書が一層必要になるのであり、「自ら本に手を伸ばす子供を育てる」「読書習慣を身に付けさせる」ことが切実に求められています。

保護者の皆さま！子どもたちといっしょに読書（読み聞かせ）をする時間をつくったり、いっしょに本屋さんや図書館に出かけて、読書の楽しさと出逢うきっかけをつくってあげましょう。

前号でもお知らせしましたが、『読書活動優秀実践校』として沖縄県教育長表彰を受賞することが決まった本校の読書活動をますます充実させていきましょう。ご協力よろしく申し上げます。



読書の秋



読書の秋に因んで職員に配布した校長メモを転載します！

☆読書の話 part II



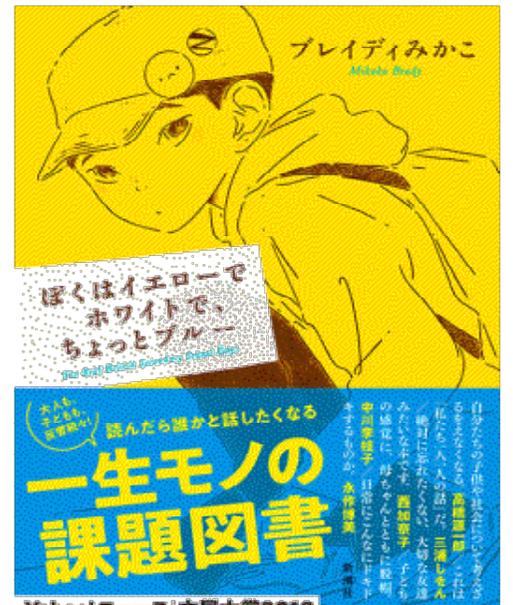
週案コメント
 令和2年9月

◎読書についての話しPart IIに付き合ってください。

→ この本も読みたいなと思っていてそのままにしていた本ですが、先日書店で目についたので購入し一気に読みました。イギリス在住の著者とその息子さんとのお話ですが、いろいろと考えさせられる内容です。先生方にもぜひ読んでもらいたいと思います。タイトルにも関係しているのですが、人種差別やLGBTQ・多様性といった今世界が抱える課題を著者家族の日常から読み解くヒントが記されていました。(個人的な感想ですが・・・)

内容の中で自分も似たような体験をし自覚したことがあったのを思い出したので、そのエピソードを紹介します。大学時代にアメリカで一人旅を続けていたときの話です。街中や飲食店、宿泊施設や移動手段のバス等いたる場所、あらゆる場面で『ヘイ・チャニーズボーイ』と呼ばれます。最初の頃は自分が呼びかけられていることに気づかず反応もしていなかったのですが、それが度々続くうちに「自分のこと」だと気づき反応せざるをえなくなりました。その時に、普通の感情として「自分は中国人ではないのに！」と少しいらついてしまっている自分に気がつきました。そして同時に、なぜチャニーズボーイと呼ばれて少しいらつく自分がいるのだろうということにも気づきました。そう！私をチャニーズボーイと呼んでいるアメリカ人には「チャニーズ」も「コーリアン」も「ジャパニーズ」もそう簡単には区別はつかないし、その区別は大した問題ではなかったのでしょうか。(私たちがイギリス人もドイツ人もフランス人もみんなアメリカンと言っているように(笑))

むしろ自分の心の中に区別をしてほしいとおもっている・・・一緒にしてくれるなと思っている日本人(ウチ-チ1含む)がいたということに気づいたので。もしかして自覚はしていないけど、いつの間にか自分の中に隣国の人たちへの差別意識が醸成されていたのではないかという疑問にぶち当たったのでした。そして同時に、そう！実は私たちイエローは実は「エイジアン」なのだと思わされたのでした。そしてその旅の途中で、次の旅先は絶対「アジア」にしようと思ったのでした。「エイジアン」としてのアイデンティティを見つけ探し出すための旅として！！



Yahoo!ニュース|本屋大賞2019
 ノンフィクション本大賞受賞